

『ぐりとぐら』

ぐりとぐら



なかがわりえこ と おおむらゆりこ

なかがわ りえこ 文  
おおむら ゆりこ 絵  
福音館書店 1963年

そうなるんだよね。

りえこ先生は今日も「どうしたらいいかな?」と考えています。『みどり保育園』の、りえこ先生は子どもたちを喜ばせるのが大好きです。

この頃は雨ばかり。子どもたちは絵本を読んで遊びます。絵本の中でも子どもたちに喜ばれているのは『ちびくろサンボ』です。ホットケーキを食べるところでは毎回歓声が上がります。

「そうだ。私もホットケーキをたくさん食べるお話を作ろう。」

ゆりこさん、またかわいい絵をお願いね。」

こうして名作『ぐりとぐら』はまだ若い姉妹の手でから生まれました。60年くらいまえのことです。作者のなかがわりえこさんは、現役の保育士さん、妹のおおむらゆりこさんは美術学校を出たばかりだったのではと思われます。りえこ先生が大切にしたのはホットケーキのサイズです。「大きなホットケーキを食べられるのは・・・小さなねずみ!」と思いつき、お話を作ったとインタビュー記事で読みました。

でも、サイズがずれている・・・ネズミと卵のスケールに、森の木々や動物たちが入り込んでいます。サイズがずれているから入り込めたのです。

小さい子どもがミニカーに乗り込もうとしたり、人形の椅子に座ろうとしたりすることがありますね。スケールエラーと言われる行動です。子どもの視覚と運動系の統合が未発達のため起こってしまう行動だそうです。でもそれってエラーなのかな? 一緒にいたいとそうなるよね。

『ぐりとぐら』でもそうです。

「けちじゃないよ ぐりとぐら ごちそうするから まっていて」の文に絵をつけたらこうなったのです。エラーではなくて、森のみんなを喜ばせたくてこうなるのよね。

みんなを喜ばせたい、の気持ちから『ぐりとぐら』は生まれました。

この春の第69回卒園記念品の中に『ぐりとぐら』シリーズの7冊もはっています。

今日もまた雨。今年はずっとより早く梅雨に入りました。こんなときは絵本がいい友達になってくれます。

2021年5月21日 梅崎啓子